

GRAZIE

“グラツェ”

“グラツェ”とはイタリア語で“ありがとう”の意味。陽気なラテン民族の言葉に倣って、素直に感謝の言葉を口にできる明るい場作りを、本学科は心がけています。

本誌は学生が主体となって企画・編集をおこなっています。

Q1 大学生活で一番楽しい事は何かですか？

友達との時間・友達が増える事・新しい出会いや授業・学校生活を通して新しい発見がある事・サークル・部活動・張先生の授業・体育・ドイツ語の授業・田中先生の授業・菊池先生の研究室でごはんを一緒に食べる・先輩への人生相談・サークルのお泊り会、など



コメント:新しい出会い…。イ響きだああ。大学って常に新しい出会いがあるよね。授業、サークル…。友達は増える一方！先生の研究室でご飯…。俺も〇中先生の研究室でラーメンごちそうになったことがあったなあ(笑)。アロマの匂いがする研究室の〇島先生は、「いつでもお茶しにきてね。お菓子もいっぱいあるから」と誘ってくれる。



大学の先生ってイメージしていたよりとてもフレンドリーだよな。

Q2 国際コミュニケーション学科に入ってみて、ちょっと意外だった事は？

英語の文法や単語とかばかりを習うのかと思っていたら、異文化などについて学んでいる所・施設がきれいでリラクゼーションルームみたいなソファとかクッションがいっぱいある部屋がある・少人数の授業が多い所・英語力はもちろんだけど、コミュニケーション力の方もすごく重視している、など



コメント:俺も大学入る前は、英語の文法とかをバリバリやるのかと思っていた。でも英語を学ぶってことは、そればかりじゃないんだよ。異文化を知ることも含まれるんだって大学入って実感した。リラクゼーションルームは最高だよな。1年生は知らない人が多いけど、



あの空間は今年できたんだよ！俺もあの部屋大好き。ソファとか気持ち良すぎて、家に持って帰りたいって本気で思った。いや、実は今も狙っている(笑)。あの部屋には論文集や海外の雑誌などいろいろあるから、あのソファでのんびり読めば最高。もう一つ俺のお薦めはあの部屋のシックな地球儀。かなり高いらしいから触る時は気をつけてくれよ(笑)。

Q3 ズバリ、皆に伝えたいと思うような国際コミュニケーション学科の魅力は？

特集: 今年の新入生に 大接近!

今年度この学科に入学した新入生は、全部で148人。他の学科の人達から「あの学科はどこか個性的な人が多いんだよね」と噂されているんだとか。確かにアクティブな雰囲気の人が多い感じも見受けられますが……。そこで早速アンケートをとり、大学に期待すること、夢などを語ってもらい、集計してみました。そして、それに対して、先輩マンガがコメントをしてくれました。

(アンケート集計担当:すぶーん&ぼんび、イラスト:あきえ)



英語に触れる事で、様々な文化に触れる事が出来る・コミュニケーション手段としての英語や話術を学ぶので、実生活や社会でも役立つし、英語圏だけじゃない他の文化にも興味がわく・授業内でグループワークやペアワークがあるので、色々な人と喋れるし友達が出来やすい・コミュニケーションが楽しくなる・机に座って聞いているだけじゃない授業がいっぱいあるから、飽きないし楽しい・先生が皆個性的でユニーク・授業の90分が早く感じられる・色々な行事がある(オリエンテーションキャンプ、お菓子パーティーなど)・

英語、世界への理解が深まる、など
コメント:なるほど。今年から開設された国際コミュニケーション学科。素敵なカリキュラムで、様々なイベントがあり楽しそうだね。俺も参加したお菓子パーティーはとても楽しかった！いろんな国のお菓子や手作りのお菓子、そして先生方とのお喋り…。とても良い時間だったなあ。俺もあと〇年遅く生まれてれば…。って思うぐらい魅力的な学科だと思うよ。先生方も素敵な先生ばかりだし。授業外でそんな先生方とコミュニケーションをとると、先生方の意外な一面が見られるよ。そうするとまた授業もさらに楽しくなるかもな。



Q4 この学科の授業などを通して何をしたいと思っていますか？

英語がペラペラになって外国の人たちといっぱいしゃべりたい・留学！色々な所に行って先生方みたいに異文化体験豊富になりたい・フライトアテンダントで海外を回りたい・中国語やラテン語もマスターしたい！・英語で論文を書いたり読んだりしたい・映画を字幕無しで見られるようになりたい・英語を寝言で言っちゃうようになりたい、など



コメント:俺も入学当初は英語がペラペラになりたい！と強く思っていました。でも、この大学に入り、何のために英語を学ぶのか、英語の役割というのを年々強く考えさせられています。そして、ピチピチした1年生に一言。やりたいと思ったことは何でも挑戦するべし！留学したい？行ってこーい！英語で論文を書きたい？できる！できる！何でも行動あるのみ！俺から言えることはただそれだけだな。じゃ充実した大学生活を！



新しいキャンパスライフに夢が広がる新入生。残り3年。充実した、そして思い出深い学生生活になるよう、編集部一同お祈りしています。

東京一人暮らし

東京ってのは、道で知らない人同士が挨拶しないのら~??

国際コミュニケーション学科1年 阿部 麗さん

彼女は長野県諏訪郡原村、人口8千人という小さな村から今年の4月に上京してきて1人暮らしをしている。彼女が1人暮らしをしている日野市「南平」は原村と似ていて「私、南平大好きなんですよ!」と興奮しながら何度も繰り返していた。彼女のアパートの大家さんは彼女が風邪をひいた時などよく助けてくれるらしい。彼女にとって大家さんは東京の家族なのかもしれない。彼女の得意料理は、ピーマンの肉詰めとかぼちゃの煮つけ。とても家庭的ら~!私も1度ご馳走になりたいら~!彼女のチャームポイントは「○○○ら~」と語尾に「ら」が付くとても可愛いお国言葉である。それを少し真似してみました。使い方はこれで正しいのかは不明です(笑)。そんな彼女が上京してビックリしたことは、道で知らない人同士が挨拶をしないということ。彼女の村では知らない人同士でも挨拶を交わすのが当たり前!温かい村で生まれ育った彼女の、優しさが伝わってきた。

中国語クラス

僕のあだ名は“テンドン”、クラスで良く使う言葉は“ホンジャア”!?

国際コミュニケーション学科1年 畑中 遼太君

彼の中国語の先生は、少し変わっていて面白いと噂の中国人の張(ジャン)先生。「眠くなったら教室を歩け、お腹が減っていたらお菓子でもなんでも授業中でも食べろ、とにかく寝るな!」それが張先生の授業スタイル。そんな張先生の授業は、中国語4割、日本語4割、英語2割の三ヶ国語で行われていて、日本語には訳できない中国語を英語で説明するらしい。クラスでよく使われる言葉が「ホンジャア」、意味は「家に帰る」という意味。「ホンジャアしたい」と皆よく使うそうだ。彼の苗字、「畑中」は中国で「ティエンジョン」と発音し、そこから彼のあだ名「テンドン」が生まれたらしい。「多分みんな僕の本名知らない…」と彼は呟いていた。そんなテンドン、いや畑中君は2年次以降の授業にあるフィールドワークで中国に行き、植林をしたいと言っていた。環境問題に興味があると真剣な顔で話していた彼、でもあだ名はテンドン。そのギャップに私は少しキュンとした(笑)。

夏季留学

次は日本人以外の友達ができる留学をしてみたいなー。

国際コミュニケーション学科1年 柏木 友太君

彼が夏季留学をした先はアメリカのカリフォルニア州立モントレーベイ校。期間は約3週間のホームステイ。初めて留学に行った彼に私は失礼ながらも「失敗談」を聞きだそうとしたら、彼は爽やかな笑顔で「無いです」と答えた。「一番印象に残った出来事は?」という質問に彼は、今まで話していた声のトーンが1.5オクターブぐらい上がった声で、「結婚式に行きました!」と笑顔で話してくれた。日本でも結婚式には行ったことがないと言っていた彼、とても感動したのだろうか彼の楽しそうに話す姿を見て思った。最後に、「今度はどこに行きたい?」という質問に、「また同じ所に行きたいです」と答えた。夏休み期間中でキャンパスにも現地の学生がいなくて、クラスも日本人ばかりだったので日本人以外の友達ができなかったという彼。今度は日本人以外の友達も作りたいと希望に満ちた顔で話してくれた。今度は是非「失敗談」を…と思うのは私だけでしょうか(笑)。

学生達の『ちっちゃな探検・おおきな冒険』私的日記。

『大学一周探検、一人旅』

明星大学は一周するのに4995歩かかる、広大な敷地の大学だった、の巻

3年間毎日の様に大学に通っていながら、私は自分の行動範囲内しかこの大学について知らなかった。そう、編集長に「学校一周、周ってみたい?」と言われるまでは。

気持ちのいい秋晴れの昼下がり、私は学校を一周することにした。まずは正門を出て図書館の方へ。普段はさささと通り過ぎる道をよく見ると、横に鬱蒼とした林があり、そこに「行動分析研究館」という建物があることに気が付いた。静寂漂うその建物には入り口まで蔭が這い、あちこちでクモが元気に活動し、地面には小動物用のケージが置かれている。なんだろう?行動分析研究館?どんな研究が行われているのかしら?とりあえず一人で入るのは怖かったので、謎を残したまま私はその場を後にした。

図書館を横切り運動施設の方へ足を向ける。小道を下るのが、林の中の小道の行程が続き、まるでハイキング。気持ちがいい。まだ暑い盛りなのに、ここだけひんやりとした木々の空気に満たされている。坂の下に野球場とテニスコートが見え、体育の授業が行われていて、楽しそうな声が響く。アーチェリー場を覗いて見ると、矢をつがえて的に向かう選手がいた。青空に運動している生徒たちが映え、なんだかとても爽やかな気分

になりながら、小道を進んだ。

再び坂を上がり、新体育館を横目に見ながら、バイクの駐車場に向かう。ずらっとバイクが整列する中、警備員の人が暇そうに立っている。あれ?そこにごみの集積所があった。目立つゴミは大量のペットボトル。ほかにもイスや鉄板なども捨ててあり、それらを一人のおじさんが黙々と整理していた。大変だなあ。こういう人達によって大学は支えられているんだなあ。

ふと気づくと工学部の施設に囲まれていた。まるでどこかの工場にいるような錯覚に陥る。長い渡り廊下、太い電気コードが巻きつけてある柱、作業服で歩く学生達。私の知らなかった異次元空間。ああ、大学って実は広かったのね。その時に見慣れた学食が見え、やっと普段の日常に帰ったような懐かしさを感じた。一周にかかった時間は約一時間。通いなれた大学にこんな新しい景色を発見できるとは思っていなかったなあ。

今も新しい建物をどんどん建設中の明星大学。ちょっとヒマだったり、授業が休講になっちゃったりした時、大学一周の旅はなかなかオススメですよ。(ばんび)

『タイ一人旅日記』

めっちゃくちゃ大変だったからこそ、心に残る旅になったなあ

タイ語なんて全く分からない私が一人で訪れた

タイ。ウボンラチャターニーでは、空港に着いた早々、どこにどう行っていいか分からず、英語が通じず、困った私を助けてくれたのは、飛行機で隣の席だった女の子。彼女を迎えに来た車と一緒に乗って、ウボンの寺やマーケットにも案内してもらっちゃいました。

ウボンの小学校では子供達が一週間毎日花を摘んでプレゼントしてくれた。言葉が通じなくても、一緒に走り回ったり笑いあったり、それがめちゃくちゃ嬉しかった。こういう現地の人との出会いとか感動とかがやみつきになるんだな。

今回の旅では、1週間入院したけど(泣)、だから行かないなんてもったいないし、失敗する事や、バカになる事、その土地の色々な面を見てくるのが大事だなんて思う。その分嬉しかった時の気持ちが倍になって返ってきて、心に残る旅になるんだもん。(びんき)



「サマースクール、今年度も無事終了!」

今年もまた、8月1日～6日まで、大学生が先生となって、小学生・中学生に楽しく英語を教えようというプログラムが行われ、今年は国際色豊かに盛り上がりました。

不安や緊張を胸にしながらむかえたサマースクール。となぜか、開会式の司会者は2人とも制服のコスプレ!?生徒の話によると、コスプレはT先生の趣味だとか…(笑)。このような明るい雰囲気の中、サマースクールが始まりました。

今年も、8人の国際ボランティアがこのプロジェクトに参加しました。彼らはみな英語圏外出身なので、外国語を使うという面では、日本の学生と同じ条件でした。最初は英語を上手く話せない



為、国際ボランティアの人たちを避けてしまったという生徒もいました。しかし、時間が経つにつれて、みんな上手くコミュニケーションをとれるようになったようで、変態漫談(笑)をするというのも小耳にはさみしました。

授業は、午前と午後の部にわかれており、それぞれ3時間の授業でした。授業と聞くと、どうも堅苦しいイメージがありますが、実際に授業をのぞいてみると、少人数制で、机に向かって勉強するのではなく、ゲームをしたり会話をしたりと、みんな楽しそうに取り組んでいました。英語の苦手な小・中学生も、傍に大学生や国際ボランティアの人たちがついてるので、自信を持って答えていました。このようなやり取りの中で、段々とみんなの仲も深まり、休憩中に、小学生とふざけ合う学生の姿も見られました。

楽しい時間は、あっという間に過ぎてしまうものです。閉会式をむかえるにあたって、6日間やり遂げたという達成感と、みんなと別れなければならぬ寂しさで、複雑な気持ちの人が多かっ



授与し終わると、感極まって涙を流している人も見られました。最初は英語が苦手と言っていた小・中学生も、前より英語がわかるようになったと言っていました。

この6日間、参加した人たちにとっては、とても早く、夏休み最高の思い出にもなったと思います。うわさによると、カップルも誕生とか!?この2人にとっては間違いなく最高の6日間だったはず…。うらやましい。

人に教えることの大変さや、人と関わることの難しさ、他の国の人々との文化の違い。今回、このプログラムに参加した人全員が、たくさんのことを学んだのではないのでしょうか?ぜひ来年は、みなさんも参加してみませんか?(でっぴ)

「こんなこと、やりました!」07▶10月編

「学科開設記念イベント第四弾、無事終了!」

8月27日、ニューメキシコ大学から先生をお招きしてワークショップが開催されました。

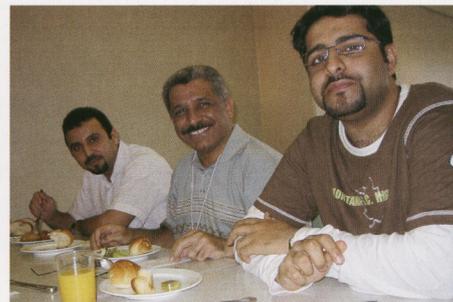
今回のテーマは“Communication and Environment”(コミュニケーションと環境)。このテーマについて話をしてくれたのは、ニューメキシコ大学のジョン・コンドン教授です。

今回のワークショップの参加者は25人。大学生、大学院生、高校の先生、明星大学を初めとする大学の先生、国際センターの職員、一般の主婦など異文化コミュニケーションに興味を持つ



色々な方が参加しました。その内容は、人は自分が生活し他の人と交流する空間(環境)を、どのように認識し利用しているのか?そこで豊富な異文化体験と研究歴を持つコンドン先生が、ビデオやスライドを用いて興味深い話や問題提起をしながら、みなさんに様々なアクティビティに参加してもらい、空間・場所・環境と異文化コミュニケーションの問題にアプローチしていくというものでした。

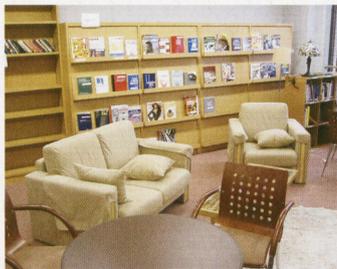
このワークショップに参加した茅野先生に特に印象に残った事を聞いてみると、「色々な話やアクティビティを通して人間と環境の関係について考えさせられたが、中でもアメリカインディアンの人が自然に対する考え方を語るビデオが印象的だった」とのことでした。さらにワークショップの感想を聞くと、「人間も自然の一部でとても大切にしている事が伝わってきたり、色々とは頃気付かないことに気付かされたり、当然だと思っていたことが実はそうでなかったことを発見できたワークショップでした」と話してくれました。(いわっち)



「日本石油交流財団メンバー、本学科来訪!」

9月8・9日、17人の中東、アフリカ、東南アジアからのお客様がいらっしゃいました。

たっぷりした白いナイジェリアの民族衣装の男性、アラブ風のスカーフを巻いた女性を含むこの人たちは、経済産業省管轄団体の日本石油交流財団の招待で来日した産油国からの研修生です。田中ゼミ受託の「企業内教育の評価」という委託研究に関連する来学。講義の後は学生の案内でキャンパス見学、昼食を食べながら雑談をしました。準備にあたって「お祈り部屋」の設置や、豚肉を含まない昼食の注文などイスラム文化を学ぶ機会にもなりました。講義、雑談ともに英語で進んだイベントは「世界英語」の貴重な体験となりました。(田中)



今回は、23号館の502、503、504号室を紹介したいと思います。それぞれの部屋に共通して言えることは、くつろげる空間ということ。昼休みや授業の空き時間には、学生が寝ていたり、本を読んだり、映画を観たりとのんびり過ごしています。

504号室は、English Loungeとも呼ばれていて、洋書を読んだり、外人の先生方とお話することもできます。私の履修している授業では、ここで必ず1人以上先生と話すという課題があります。課題になっているからではなく、皆さんにも有効に利用してもらいたいと思います。この部屋のとなり505号室には、中国の雑誌やビデオが沢山あります。最近では韓国の映画が人気ですが、中国の映画も面白いものが沢山あります。是非空き時間を利用して、観てみてはいかがですか?せっかく国際コミュニケーション学科に入学したので、このような施設を有効活用して、充実した学生生活を送ってください。(でっぶ)



私達の施設自慢
他大学には絶対にないに違いない特筆すべき施設とは?



フィギュアがいっぱいあると噂の研究室、国際コミュニケーション学科の細谷先生の研究室におじゃましました。研究室に入ってみると、早速数体のフィギュアが迎えてくれました。研究室に行く前に、本当にもの凄い数のフィギュアがあると聞いていましたが、実際に入ってみると噂ほどではありませんでした。がそれは少し前に処分したからだそうです。それでも見た事ないほどの数があり、ビックリしました。細谷先生の趣味はフィギュアだけでなく、レーザーグッズや帽子、ビートルズなど色々あるそうです。その中でも特に僕が印象に残ったのは、研究室の隅々まであるフィギュアでした。細谷先生がフィギュアを集めたのは10年ほど前で、今までフィギュアに使ったお金はなんと新車一台分!だそうです。現在のお気に入り「ワニゴン、ガマロン」だそうです(写真参照)。「元ウルトラマンとか特撮が好きだった」という先生は、授業でもウルトラセブンなど特撮ものを使っているらしいです。フィギュアを買うところは中野や立川ですが、「立川は最近フィギュアが衰退してきた」と細谷先生は残念そう。

探険! 教員の研究室
研究室を訪門し、知られざる教員の素顔に迫ってみた

そんな細谷先生の研究室へ、皆さんもぜひ遊びに行ってください。きついろんな話で楽しませてくれますよ。(いわっち)

火曜日の3限に、人文科学論という授業が行われています。この授業は、前期は菊地滋夫先生が行い、後期は小林一岳先生が行っています。授業の内容は、呪術や宗教を中心とした、少しマニアックで難しいものです。私たちの年代で、普段生活する中、呪術を信じている人はあまりいないと思います。強いて言うなら、占いを信じる程度だと思います。しかし、小林

覗いちゃったオモシロ授業
コレハオモシロイ! そんな授業を学生記者が体験レポート



先生は大ファンの阪神タイガースが優勝するために、ある神様をお願いし、優勝したときにはその神様のおかげだと言ったり、マイクの調子が悪くなると、「この宗教の話は、そんな軽々しくできるほどのものではないから、マイクの調子が悪くなったのだ(笑)」などと言ったり、とても熱く神様について語ります。また、みなさんが興味津々のちょっとエッチな宗教もあったりと、内容は難しいのですが、先生のお話がとても奇天烈で面白いのでお勧めです。来年はぜひ履修してみたらいかがですか?(でっぶ)

気になるあの子にインタビュー!
どんな子が何をしているのかな?

今回、私がインタビューをおこなったのは国際コミュニケーション学科1年生の安住淵さんです。彼女になぜこの大学と学部を選んだのか聞いてみると、「見学に来たとき生徒の雰囲気よかったこと、明星の綺麗なおとこが入ったからです」と言っていました。

この学科を選んだ理由は「今、日本語と韓国語ができるので英語も話せるようになりたい。あと趣味が映画鑑賞なので字幕なしで映画がみたい」という国際的な彼女。留学の事も真面目に考えているようで、アメリカのカリフォルニアに行きたいと言っていた。何故?と聞いてみると「アメリカのビザを持っているから、アメリカに行きたい。カリフォルニアは数ある留学先でも栄えている方なので、そんな中にたくさんあるはずの若者の文化を中心に学びたいと思ってる。だからカリフォルニアなんだ」と言っていました。現在は4月からの留学に向けての準備で大忙しのご様子。そんななんでも頑張り屋さんの安住淵さんのカリフォルニアから帰って来た時の活躍が楽しみ。これからの彼女に今後も期待していきたいです。(はっしー)



Wanted

- ◆『英語劇がわかる』をめざす仲間募集中!
字幕がなくても大丈夫! 来年5月の英語劇、英語100%の2時間半を全身で体感するための準備体操のはじまり! 聞いてわかるために3240単語の登録をあなたの耳に! @23-504、水曜5:50、11月16日から。詳細は住本@2-316または斎藤@23-504まで。
- ◆都内の旅行会社で社員、急募!
四年生の学生さん注目! たいだいま、都内の旅行会社で社員を募集中。仕事内容は旅行手配業務で、求める人材はガッツのある方。給料、インセンティブなどの詳細は面談にて。米国人やアフリカ人が顧客に多いので、大学で培った英語力を仕事で生かせます。興味のある方は、事務室の白川まで。
- ◆このミニコミの学生編集スタッフ募集中!
将来マスコミの仕事をしたい人、またはイラストなどで自己表現をしたい人、記事を書きたい人、などなど只今募集中。企画段階から実際に形にしていって、全てを自分で体験できます。少しでも興味があればぜひ積極的に参加して下さい。
- ◆これは是非載せて欲しい! の記事&情報大募集
このフリーマガジンは、みなさんと作っていくメディアです。より充実した内容にしていけるために、どんな些細なことでもネタをお待ちしています。
- ◆応募は明星大学 人文学部 国際コミュニケーション学科編集部まで
〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1 Tel 042-591-5329、またはメールinfo-com@eleal.meisei-u.ac.jp

◆【編集スタッフの泣き】
いよいよ冬到来ということで、ウサギのファーのボレロを二万円買った。ふわふわでとってもカワイイんだけど、これ、ウサギ何匹分なんだろう? と思ったらちとコワイ(でっぶ) 町田にドライブに行った。隣をふと見たら、普通車の中にヘルメットをかぶった四人が。あいつらはいったい何者だったんだろう(はっしー) ? 明星大学の購買部は、焼きそばパンが一番目立つところに置いてある。だから今日もついまた手をのばして買った。買った。焼きそばパン・キャンペーン状態だ(いわっち)